



芦安中学校だより

第 13 号

校長 大石 浩雄

2025. 11. 10

11月になり、朝夕寒さを感じる日が増えました。周囲の木々も本格的に紅葉してきています。学校でも朝の寒い時間帯にストーブを使うようになりましたが、生徒たちには寒さに負けず元気であってほしいと思います。

☆バドミントン部の県新人大会

10月25日(土)にバドミントン部1・2年生が出場する県新人大会が実施されました。この大会に向け一人一人が練習に取り組んできました。男子シングルの1名、女子シングルスに2名、女子ダブルスに1ペアが試合に臨みましたが、残念ながら初戦敗退となってしまいました。ただ、観戦した試合の様子から7月の大会時に比べ技術面や戦術面での進歩がみられ、練習の成果を感じることができました。

同じ試合を観戦した保護者さんから聞いた話ですが、生徒の中には自分の試合のビデオを見返す中で、自分のプレーの課題に気づき練習にいかしていたということもあったようです。とても素晴らしいことだと思います。

部活動に限ったことではありませんが、自分の姿を客観的に見て課題に気づくことは、成長や変化の第一歩だと言えます。中学生くらいの年代は、自分中心の視点から相手の視点や第三者の視点についても考えられるようになる時だと思います。今回の経験を色々なところにいかしてもらえるといいと思います。

☆埴原先生の合唱指導を受けました

10月29日(水)と11月5日(水)の午後、白峰祭に向けて、合唱指導で高名な埴原美枝子先生を講師に招いて練習を行いました。

今年の合唱曲は「地球星歌(ちきゅうせい)〜笑顔のために〜」という曲です。生徒たちで話し合い決めた曲で、音楽の保坂先生が芦安中の生徒が歌いやすいようにアレンジしてくれました。練習のはじめは少し硬さ

もありましたが、次第に気持ちがほぐれていったようで、のびやかな歌声が校舎に響きました。

1回目の練習の際に、埴原先生から先生方も合唱に加わったらどうかとアドバイスもありましたが、そのことを生徒に投げかけたところ、自分たちの力だけでやってみるという返事がありました。合唱の出来栄としては人数が増えた方が良いのかもしれませんが、生徒たちの「自分達の力で」という気持ちに期待して先生は入らないことにするといったこともありました。

白峰祭で中学生が取り組む合唱・演劇・太鼓はどれも表現活動といわれるものです。「上手・下手」「成功した・失敗した」といったことよりも、曲やセリフを通して自分を表現することで、自己存在感を感じてもらいたいと思っています。

白峰祭で中学生が取り組む合唱・演劇・太鼓はどれも表現活動といわれるものです。「上手・下手」「成功した・失敗した」といったことよりも、曲やセリフを通して自分を表現することで、自己存在感を感じてもらいたいと思っています。

☆英語の読み聞かせをしました

10月30日(木)の朝の時間を利用して小中合同英語活動(絵本の読み聞かせ)が行われました。今回は「Goodnight, Gorilla」という絵本を取り上げました。この絵本に

はあまり文章がありません。そこで中学生が絵を題材にして一緒に数を数えたり質問をしたりすることで、小学生の関心を高め楽しめるように工夫していました。

英語活動というと流暢に英語を話すことや適切な発音ができなければいけないと思いがちですが、まずはやってみようとする、やったことで相手が反応してくれたことを楽しいうれしいと感じることが大切だと思います。そうした視点で見ると今回の読み聞かせは、低学年の児童が質問にしっかり答えてくれたこと、高学年の児童に中学生として見本を示せたこと、そして自分たちがしたことによって周囲が反応したり拍手をもらえたりしたこと等、とてもポジティブな意味があったのではないかと感じました。



歌声が校舎の中に響きました



小学生の反応がとてもよかったです

☆おめでとう！

税についての作文で入選

夏休みの選択課題のひとつであった甲府税務署管内納税貯蓄組合連合会主催、中学生の税についての作文に応募した3年生笠井さんの作文が、「甲府税務署管内納税貯蓄組合連合会優秀賞」を受賞しました。おめでとうございます。

受賞した作文は「森林環境税」について取り上げ、林業が抱える問題や森林の環境維持の必要性和自分が芦安中で体験した学校林整備や全校登山のことを結び付けて書かれていました。身近にある税金について関心を持ち、その目的が自分の生活に結びついていることに気づくことができた様子が伝わってきて、感心させられました。また、芦安中の特色として取り組んでいる自然体験活動が、生徒の中に着実に残っていることをうれしく思います。



☆芦安小中白峰祭が実施されました

11月7日(金)の午後、保護者や学校運営協議会、地域の方たちをお招きして芦安小中学校合同の白峰祭を実施しました。当日は多くの保護者、地域の方に参観していただきました。ありがとうございます。

今年の白峰祭のテーマは「結色(けっしょく)～みんなが楽しく、輝く笑顔で芦安に響かせよう～」このテーマに向けて小学生は合唱と合奏、中学生は演劇と合唱、小中学生合同で太鼓に取り組んできました。また、児童会生徒会本部の児童生徒は、これらの練習と並行して会の運営などにも取り組んできました。

中学生の演劇と合唱

中学生の演劇は「現代版竹取物語～姫のホンモノ～」という創作劇でした。古典の竹取物語を元に、小学生が見てもわかりやすく楽しめるようにと生徒たちが現代風オリジナル台本を作成して、ひとりひとりが精一杯の演技をしてくれたのではないかと思います。

芦安中の演劇は、伝統的に



全員に出番があります。そうしたことを苦手と感じている生徒もいましたが、「やらない」という選択ではなく「どうすればできるか」をみんなで考え、お互いに納得できる形で全員が参加できたことは大きな学びであったように思います。

合唱についても、例年は劇と切り離れた発表でしたが、今年は劇の内容と関連を持たせたいから続けて歌えるようにしようと考え、劇のエンディングとして歌いました。9名と少ない人数ですが生徒たちは自分たちの気持ちを届けようと頑張りました。

小中学生合同の夜叉神太鼓

太鼓活動は、1学期から約20回の練習を経ての発表となりました。地域の伝統として子供たちに引き継いでいってほしいという地域の願いを受け、取り組んできました。今年はこれまで取り組んできた「勇気」という曲に加え、児童生徒がつくったフレーズをもとに講師の先生が作曲してくださった「みんなの太鼓」という曲にも取り組み、2曲を発表することができました。

中学生の展示

総合的な学習の時間や美術、技術等の授業で取り組んだ作品や文化部の生徒が取り組んだ作品が展示されました。作品にはそれぞれの生徒の個性が出ていたように思います。

保護者・地域みなさまへお願い

- ①児童生徒は、多くの方にご覧いただいたことで、新たな意欲を持つことができました。今後、児童生徒に会う機会がありましたら、感想等を伝えていただけるとありがたいです。
- ②白峰祭の様子を写真や動画で撮影した方は、個人情報やプライバシー保護の観点から、不特定多数の人が閲覧できるSNS等への投稿を控えるようお願いいたします。

